

令和3年度 社会福祉法人 進和学園 事業計画

世界的な新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、昨年度中は社会活動が自粛され、日常生活や生産活動に大きな支障が出ました。そして令和3年度もその状況は続いており、変異株の発生など予断を許しません。令和3年度早々にはワクチン接種が始まりますが、決して気を緩められる状況ではなく、引き続き新しい生活様式として感染予防対策を徹底してまいります。さらに新型コロナウイルス感染症の問題は感染による健康被害や経済活動への打撃のみならず、人と人とがふれあい、交流する機会の減少や家に籠りがちになる不活性化によりもたらされる心の問題にも及んでいきます。「ともに生きる」社会の実現に向けて、地域社会を支えていくことが社会福祉法人の使命と捉えて取り組んでまいります。

令和3年度新規事業として、地域の放課後児童健全育成事業「旭学童保育会」の運営を保護者会の要望に応じて引継ぎ、平塚市より受託します。また神奈川県より障害者支援施設等意思決定支援モデル事業を進和あさひホームで受託し、進和学園の今までの取組を踏まえてモデル事業の諸課題に取り組んでまいります。

令和3年度は3年ごとの報酬改定の年であります。利用者の高齢化、重度化の課題に向けた改定がなされるとともに、就労支援関係は偏りすぎた成果主義からの仕組みの変更もあります。コロナ対策、処遇改善加算も含めての予算配分になっていますので各事業の円滑な運営に努めてまいります。

今後の障がい部門の役割・機能については、ご本人の意思決定を尊重し、ライフサイクルの中で必要な支援を必要な時期に受けられる入所施設・グループホーム並びに日中活動支援事業所のサービス体系のさらなる推進を図ります。特に入所施設はセーフティネットとしての地域生活を支える拠点であり、引き続き短期入所等の機能を充実してまいります。権利擁護、虐待防止については、人権・虐待防止委員会を中心に各施設で引き続き取り組んでまいります。保育園部門は、地域の期待に応えるべく子育て支援の充実に努めてまいります。学童保育部門については新たに組織の強化を図ります。

進和学園は地域・社会に支えられ63年目を迎えます。本年度も「本人中心」の理念を徹底尊重し、利用者ご本人の幸せとご家族の安心のために職員一丸となって取り組むと共に、地域の社会資源として「福祉のまちづくり」「防災」についても貢献できるよう努めてまいります。

《重点課題 法人運営》

- 1 新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を引き続き徹底してまいります。神奈川県下の福祉施設において多数の感染者が出ている状況であり、当法人の施設・事業所でも一部陽性者が出ましたがそこからの感染拡大はありませんでした。高齢、基礎疾患を持っている利用者ご本人が多い中で、万が一の場合も日頃の対策に加え保健所等関係機関と連携して感染を最小限に食い止める対応に引き続き努めてまいります。ワクチン接種が円滑に進められるよう調整してまいります。
- 2 令和3年度6月定時評議員会終結時をもって役員、評議員が任期満了に伴う改選となることから、あらためて法人運営体制を確立していきます。特に地域社会に貢献することが法人の使命であることを鑑み引続き推進してまいります。
- 3 令和3年度は保護者会の運営であった「旭学童保育会第1」「旭学童保育会第2」を保護者会の要望に応じて引継ぐことになり平塚市より受託します。令和2年度「勝原学童保育会」を保護者会から引き継いだ実績を受けての要請となります。学童保育の拠点が3か所になることにより学童保育部門の強化を図ります。そのため進和学園の人材、プログラム、機能等で総合的に学童保育の運営をバックアップしていきます。この機会を捉えて、子どもたちが福祉のふれあいを通して、多様な価値観を認め合い尊重する「ともに生きる社会」の醸成を目指してまいります。
- 4 福祉人材の確保・育成に積極的に取り組みます。人材確保については、新卒及び中途採用の推進を、採用人事サポートチームを中心とした体制でオンラインを活用する等積極的に取り組みます。特に保

育士の人材確保は大きな課題となっております。障がい部門と共同し養成校への学校訪問など工夫しながら推進していきます。人材育成については、職員養成委員会、人材育成・人事考課制度委員会、人権・虐待防止委員会等が中心になり、階層的な研修体制を推進します。

5 地域のニーズを事業に反映し、先駆的、創造的事業に取り組める体制を推進します。公益的な取組については現在、在宅障がい者に対する食事提供(実費)・生活支援、平塚市民の花なでしこの苗栽培と無料配布、湘南平あじさい管理、陶芸体験教室、地域ふれあい交流事業、環境緑化・環境教育、地域防災への協力、まちの活性化イベントへの協力等に取り組んでいます。さらなる展開に努めてまいります。

《重点目標Ⅰ 施設整備》

1 やましろホームの住環境の整備について

やましろホームは開設から 35 年が経過し、生活介護利用者(通所)ご本人のご家族の高齢化に伴いご本人を家庭で支えることは困難になって来ています。国の方針で入所定員を増やすことはできません。そのため自閉的傾向や行動障がいのある利用者ご本人にとって住みやすい環境のあるグループホームは大変重要な生活の場所になります。今年度やましろホームの通所の利用者がグループホームに 1 名の方が入居します。日中は引き続きやましろホームの生活介護を利用します。夜間はグループホーム、日中はやましろホームを利用という施設間で支えあう利用です。今年度はさらにグループホームと連携し、できるところから入所利用者ご本人のグループホームへの地域移行、在宅の方の入所またはグループホームへの入居ができるよう推進してまいります。

2 グループホームの拡充について

利用者ご本人の支援度の高まり、ご家族の高齢化などを理由に入所のニーズは高まるものの、国の方針として入所定員は増えることはありません。よってグループホームの休日・夜間体制の強化と障がいの重い人でも利用できる体制が必要となります。小規模な暮らしを基本としたバリアフリーのグループホームを、引き続き検討してまいります。平成 29 年 5 月に法人で取得した、万田地区一戸建て住宅のグループホーム化へ向けて進めてまいります。特に入所、在宅からの体験利用を促進する体験型グループホームの必要性もあります。今後、グループホームの設置申請は平塚市と調整して、スプリンクラーの設置や用途変更の確認申請をして参ります。

《重点目標Ⅱ 施設運営》

1 保育園部門の運営について

コロナ禍において、例年行っていた行事等が同じように実施出来なくなり、子ども達の保育園での生活の様子や成長を発表する場が減少しています。情報の発信方法を検討し保護者と子ども達の成長を共有出来る様に努めます。保育園内での活動をより充実出来る様に、各園の情報の共有を図ると共に、可能な範囲で在園児の交流及び職員の人事交流等をおこない、保育の質を高められるよう取り組みます。

2 人材育成の推進について

階層別研修と各施設でのスーパーバイザー方式の人材育成・定着は人材育成・人事考課制度委員会を中心に、またキャリアアップ研修、国家資格取得奨励は、職員養成委員会を中心におこないます。さらに職員の資質向上に資するための外部を含めた研修参加を、職員個々の希望もくみ取って推進します。人権委員会及び職員養成委員会協調による人権擁護に係る研修も、引き続き積極的に推進してまいります。また、意思決定支援の研修を実施し利用者本人の気持ちを汲み取れる支援力を付けてまいります。

3 人事考課制度の確立について

職務遂行・貢献度に応じた自己評価・施設評価・法人評価を給与面・昇給等に反映している当該制度は、運用 6 年目を数えます。階層、職域に応じた評価軸の設定や、管理職が一時考課及び二次考課を担当することも 4 年目となり、より適正な評価に近づくものと思います。人材育成・人事考課制度委員会を中心にさらに時代時代の学園の状況に即した内容の検討、改訂を推進してまいります。

4 運営システムや IT の活用等について

コロナ禍において急速に普及したオンライン化は業務の効率化を推進する上で重要な手段であり、今後も法人施設間の会議・打合せに積極的に導入し個々のスキルアップ目指します。またタブレット等の情報端末を使うことで、速やかな情報の共有、ペーパーレスを推進します。ホームページは HP・IT 推進委員会において更新・チェックを重ね、地域社会からの理解や人材確保につなげていきます。人の移動を抑え、情報を移動させることでセキュリティ上の不安も高まります。情報管理体制を常に確認し、情報漏えいに注意を払います。

5 生活体系の推進について

①ビーライトしんわ（定員 10 名の中高生の放課後支援、定員 10 名の発達障がいをもつ中高生のグループ療育支援）としんわブライト（定員 10 名の発達障がいをもつ小学生を中心とする児童へのグループ療育支援）の 2 事業所で放課後等デイサービス事業を運営し、他事業所での受け入れが難しい重度障害や発達特性をもつ児童を積極的に受け入れることで地域に貢献します。事業環境の変化に応じた運営形態と、新型コロナウイルス感染症への対策を踏まえた上での効果的な支援方法を模索し続けながら、地域の支援ニーズに応える専門的な知識と技術のさらなる向上に引き続き取り組みます。

②高齢化、重度化に対し、健康管理に最大限配慮します。特に新型コロナウイルス感染症の予防対策については徹底をしてまいります。

医療機関と連携して各種検査を行い早期発見、早期治療に努めます。また一人ひとりに個別的な支援が必要なため、介助技術等の向上を引き続き図っていきます。

③地域生活支援の拠点機能の推進として、在宅の方、グループホーム、単身生活者等を支えるために各入所施設を中心に、緊急受入の短期入所、災害時の防災拠点、相談機能、専門性推進等の機能を強化していきます。他の法人、福祉関係団体等との連携も強化し「防災」「福祉教育」に取り組んでまいります。

6 相談支援事業について

サンシティの相談支援事業では、行政機関より委託を受けて実施している相談業務において年々発達障がいや家族支援が必要な場合等難しいケースが増えています。特に 8050 問題にて介護事業所や市役所と連携しての引きこもりのケースが目立ってきました。一般相談およびサービス等利用計画作成のもと相談支援を行ってまいります。またビーライトしんわは障がい児相談事業に取り組み、その業務の充実には専門資格取得が欠かせないため、引き続き中堅職員を中心に外部研修を計画的に推進します。またサンシティにおける就労援助部門では、湘南西部圏域（平塚、伊勢原、秦野、大磯、二宮）の広域事業であり、登録者が約 700 人と非常に多く、地域の就労支援の中核として活動を行っています。新規就労や就労した後の定着支援のニーズが非常に高まっており、特に精神障がいのある方の相談が非常に増えています。各方面（企業、労働行政、福祉サービス、教育）との連携の上、多くの方々の支援に努めます。

7 作業体系について

①ホンダ車部品組立作業は、本田技研工業様のご支援のもと発注を頂いて 47 年目になります。次世代の自動車開発が激化する中、本田技研工業様よりの受注は減少傾向にあります。が、(株)研進との協同で継続して受注確保に努めるとともに、「顧客満足」を目指して ISO9001：2015 年版の定着に努めます。

②作業の確保、時代の変化に対応するため多角化を目指していきます。自動車部品組立作業以外の作業収入も厳しい状況にあります。が情勢を踏まえ、売上目標を令和 2 年度同様の 1 億 7 千万円とします。

③自主生産事業は、引き続きサンメッセが平塚商工会議所の逸品研究会等へ参加、市内商工関係者と連携のもと製品開発、販路拡大、イベント参加に努めてまいります。サンメッセの「湘南みかんぱん」と、ルネッサンスの「トマトジュース」は、平塚市ふるさと納税返礼ギフトに登録され平成 30 年 4 月より湘南ひらつか名産品としても認定されています。サンメッセ製パン事業は学校給食、市場等への拡大を図ると共に、食品衛生法の改正により 6 月から HACCP に沿った衛

生管理で原材料の受入れから製品の出荷に至る工程を管理することが必要となります。現状の確認並びに準備をおこないます。今年度も事業の販路拡大と衛生管理の徹底に努めてまいります。

- ④ルネッサンスの農産品加工事業は、8年目を迎え年間を通し生産も安定して来ました。令和3年2月19日 HACCP(食品の製造過程管理基準)認証を取得、令和2度末に公益財団法人日本財団の助成をうけて、蒸気窯とレトルト殺菌機を設置いたしました。令和3年度は新規設備の導入により作業の効率とさらなる品質向上を図り事業推進に努めます。引き続き6次産業化ネットワークの活動を継続し、体制維持を図り、安全衛生管理を徹底してまいります。
- ⑤施設外就労は継続して、地元しまむらストア様のバックヤード作業と環境整備等の作業請負と㈱ゴバイミドリ様(いのちの森づくり作業請負)について取り組んでまいります。
- ⑥在宅就業支援制度の在宅就業障害者特例調整金の活用はしまむらストア様、(株)研進を窓口として本田技研工業(株)様が対象となります。今後も制度の活用と周知を図り、受注拡大に努めてまいります。
- ⑦いのちの森づくりは(株)研進と協同で、学校の森づくりをはじめ、湘南国際村、浜松植樹プロジェクト、NEXCO 高尾・小仏植樹祭、秦野植樹祭に参加する等、令和3年度の植樹計画は20,000本を目指します。また他法人施設との連携(どんぐりブラザーズ)にも努めます。
- ⑧ルネッサンスは湘南西地区及び平塚市の共同受注窓口として、地域の福祉事業所とのネットワークの構築、受注作業のマッチング機能を推進します。年々、受注量は増加傾向にあり連携事業所も増えてきており、更なる協力体制の推進に努めてまいります。
- ⑨「ともしびショップ湘南平」は、平成28年度より「サンメッセしんわ」と一体的に運営しています。平成30年3月25日(日)に内装を一新して、リニューアルオープンし4年目を迎えます。1階の喫茶部門は「湘南リトルツリー」としてホットケーキをはじめ、進和学園内の自主生産品を食材として活用するメニューを揃えています。販売部門は陶芸品や工芸品をはじめ楽しい商品を揃えています。2階は展示販売の他、活動スペースエリアとして家族会ボランティアの工房として、また各種イベント、レンタルスペースとしても幅広く活用していきます。コロナ禍による感染予防対策を徹底し、多様性のある運営に努めます。
- ⑩平塚市役所の1階東側多目的スペースにおける福祉ショップ「ありがとう」は本年7月で丸7年を迎えます。運営は平塚市内福祉関係団体がひとつになり組織した「ひらつか福祉ショップ運営協議会」が主体となり、平塚市の協力のもと本年も進和学園が、その事務局を担当し事業を推進していきます。また生産事業推進会議パフォーマンス部会のFM湘南ナパサ 78.3MHzのラジオ番組(ナパサクラブ制作)「バリア!フリフリ天国」(毎週月曜 19:00~19:30)に利用者ご本人が中心に参画しており、本年も福祉現場からの情報発信、福祉啓発に努めてまいります。

8 意思決定支援モデル事業について

神奈川県は、津久井やまゆり園で実践してきた意思決定支援の取組を全県展開したく、令和3年度に障害者支援施設等意思決定支援モデル事業を創設しました。事業内容は普及想定モデル(2か所)、簡易想定モデル(2か所)があり、県の依頼により進和あさひホームで簡易想定モデルを1年間受託することになりました。モデル事業を通して障害者支援施設の現状分析、課題抽出を行い、課題解決につながる発信が出来るように取り組んでまいります。

令和3年3月25日
社会福祉法人 進和学園